

鎌倉市高齢者保健福祉に関するアンケート調査結果の概要について

1 調査の目的

令和 9 年度を初年度とする第 10 期高齢者保健福祉計画の策定に向けて、高齢者の生活状況、ニーズ、地域課題等を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

2 調査結果まとめ

令和 4 年度の前回調査と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、外出行動及び地域参加意向に前向きな変化が見られます。

一方で、相談窓口の認知不足、担い手不足、認知機能、うつ、口腔機能への対応などの課題は、引き続き見られます。

第 10 期高齢者保健福祉計画においては、回復しつつある外出への意欲及び参加の流れを生かしながら、支援につながる仕組の整備とフレイル予防の強化を図ることが重要です。

3 調査概要

	令和 7 年度	令和 4 年度
調査対象	令和 7 年 12 月 1 日現在、要支援・要介護認定を受けていない満 65 歳以上の市民	令和 4 年 12 月 1 日現在、要支援・要介護認定を受けていない満 65 歳以上の市民
調査対象者数	4,000 人	4,000 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送によるアンケート形式 (Web による回答も可)	郵送によるアンケート形式
期間	令和 8 年 1 月 9 日 ～ 1 月 26 日	令和 5 年 1 月 12 日 ～ 1 月 30 日
配布数	4,000 通	4,000 通
回収数	2,527 通 (うち 176 件は Web 回答)	2,702 通
回収率	63.2%	67.6%

4 設問ごとの結果概要

	調査結果概要
問1 あなたのご家族や生活状況	・家族構成は夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が最も多く、次いで1人暮らし、息子・娘との2世帯が続いた。 ・介護・介助の必要性については、介護・介助は必要ないが約9割を占めた。 ・経済状況はふつうが約6割で最も多く、苦しいと感じる人も約2割みられた。 ・居住形態は持家が約9割であった。
問2 からだを動かすこと	・階段昇降、立ち上がり、歩行はいずれも多くの人が可能であったが、できるけどしていない、できない人も一定数みられた。 ・転倒経験は約3割みられ、転倒に対する不安も約5割を占めた。 ・外出については、週1回以上外出している人が大多数であったが、ほとんど外出しない人も、外出する目的ができれば外出の頻度が上がると考える人が半数以上みられた。 ・外出を控えている人は約1割程度で、その理由は足腰などの痛み、外での楽しみがない、トイレの心配が中心であった。 ・外出の移動手段は徒歩が最も多く、次いで電車、路線バスが続いた。
問3 食べること	・BMIは標準が約7割で、肥満、痩せが続いた。 ・固いものが食べにくい、お茶や汁物でむせる、口の渴きが気になるといった人が2割～3割弱みられ、口腔機能や嚥下機能の低下の可能性がうかがえた。 ・歯磨きは約9割が毎日行っており、噛み合わせも約8割が良好であった。 ・入れ歯利用者も4割ほどおり、手入れは約9割が毎日実施していた。 ・6か月間で2～3kg以上の体重減少は約1割にとどまり、食事を誰かとともにする機会は多く、孤食は比較的少ない傾向であった。
問4 毎日の生活	・物忘れが多いと感じる人は4割、日付がわからない時がある人が2割みられた。 ・電話、買物、食事の用意、請求書の支払い、預貯金の出し入れなどは約8割～9割の人が行えていたが、できるけどしていない人も一定数みられた。 ・新聞、本、健康情報への関心は高く、書類作成や相談、見舞い、若い人への声かけなどの社会的活動も比較的保たれていた。一方で、日常生活

	の不安や不自由を感じる人も約 5 割おり、その内容は健康面、金銭面、人間関係が中心であった。
問 5 地域での活動	・参加している会・グループは趣味関係のグループ、スポーツ関係のグループ、収入のある仕事上位であった。 ・地域づくり活動への参加意向は高く、参加者として参加してみたい人が多かったが、企画・運営として参加してみたい人はそれより少なく、参加したくない人は全地域で 5 割以上となっている。 ・居住地域別にみると、鎌倉地域では参加者として参加したくない人が他地域より高く、大船地域では企画・運営として参加意向のある人が他地域より低くなっている。
問 6 就労	・引退した人が 5 割で最も多く、次いで非常勤（パート・アルバイト等）、職に就いたことがない人が続いた。 ・引退時期については 5 年以内が最も多く、近年就労を終えた人が一定数いることがわかった。
問 7 たすけあい	・心配事や愚痴を聞いてくれる人、看病や世話をしてくれる人としては、いずれも配偶者や子ども、友人が中心であった。一方で、家族や友人・知人以外に相談する相手がいない人も 4 割いた。 ・家族構成別にみると、一人暮らしでは友人や別居の子ども、夫婦世帯では配偶者、二世帯では同居の子どもが主な支え手となっており、家族構成によって支援の担い手が異なっている。 ・友人・知人と会う頻度は比較的高く、1 か月間に会う人数も 10 人以上が約 3 割であった。 ・よく会う友人・知人は、趣味や関心が同じ友人、近所・同じ地域の人、仕事での同僚・元同僚が上位であった。
問 8 健康	・健康状態をよいと感じる人は約 8 割、幸福感も比較的高く、幸せ度の点数の平均は 10 点満点中 7.3 点であった。 ・一方で、この 1 か月間に気分が沈むことや楽しめないことがあった人も約 4 割みられた。 ・飲酒習慣は多様で、喫煙はもともと吸っていない人が最も多かった。 ・現在治療中または後遺症のある病気では、高血圧、目の病気、高脂血症が上位であった。
問 9 認知症にかかる相談窓口の把握	・認知症の症状がある人や家族に症状がある人は約 1 割で少数であった。

	・認知症に関する相談窓口の認知度は十分とはいえず、7割が知らないという回答で会った。相談先としてはかかりつけ医や地域包括支援センター、役所・役場が挙げられた。 ・本市の認知症の取組に対する認知は無回答が6割で最も多く限定的であった。認知症のイメージとしては周りに迷惑をかけるという意識が強い一方、支援次第で地域生活を続けられるという認識もみられた。 ・認知症になった場合は、介護施設でサポートを受けながら暮らしたいが約2割であったのに対し、医療・介護支援を受けながら住み慣れた地域で生活したいと考える人が約4割という結果だった。 ・認知症になっても住み慣れた地域で生活し続けるために特に必要なこととしては、介護の専門的なサポート、周囲の理解が上位だった。
問10 在宅医療	・ACPについては知らない人が7割で、認知度は低かった。 ・終活については取り組んでいない人が約5割で最も多かったが、家族との話し合いやエンディングノートなどに取り組む人も一定数みられた。
問11 老人福祉センター	・施設については知っているが利用したことがない人が約5割で最も多く、認知はあるが利用にはつながっていない状況であった。 ・利用したくなる条件としては、気楽に過ごせること、魅力的な講座が受けられること、体を動かせることが上位であった。 ・多世代交流については、多世代が共存して過ごせる空間づくりやイベントでの交流が求められ、今後の活用としては約7割が、多世代が広く利用できる施設を望んでいた。
問12 市の取組	・地域包括支援センターは知っているが利用したことはない人が約5割で多く、未利用層が大きかった。 ・市の高齢者施策では、公衆浴場利用料の助成、福寿カード・高齢者外出促進マップ、運転免許返納者等への交通費助成の認知が比較的高く、上位であった。一方で、自由記述では情報不足・周知不足、利用段階に至っていないこと、交通・移動手段の不便さが主な課題として挙げられた。

5 令和4年度との比較

回答に10ポイント以上の差、または順位の変動があった結果のみを記載しています。

	令和7年度		令和4年度	
1 あなたのご家族や生活状況				
介護・介助が必要になった 主な原因	①高齢による衰弱	29.4%	①高齢による衰弱	24.5%
	②骨折・転倒	14.7%	②心臓病	14.7%
	③心臓病	11.9%	③視覚・聴覚障害	12.3%
	④視覚・聴覚障害	9.6%	③骨折・転倒	12.3%
	⑤認知症	6.8%	⑤糖尿病	10.8%
	⑥呼吸器の病気	6.2%	⑥認知症	10.3%
主に介護・介助している人	①配偶者（夫・妻）	42.6%	①配偶者（夫・妻）	60%
	②娘	31.5%	②娘	26.7%
	③介護サービスのヘルパー	20.4%	③息子	15.0%
	④息子	16.7%	④介護サービスのヘルパー	13.3%
	⑤孫	5.6%	⑤兄弟・姉妹	3.3%
2 からだを動かすこと				
外出を控えているか	控えている	12.8%	控えている	32.5%
	控えていない	85.4%	控えていない	66.2%
外出を控えている理由	①足腰などの痛み	47.4%	①その他	63.1%
	②外での楽しみがない	23.4%	②足腰などの痛み	24.8%
	③その他	21.8%	③外での楽しみがない	10.6%
	④トイレの心配	19.9%	④トイレの心配	8.1%
外出をする際の移動手段	①徒歩	83.6%	①徒歩	82.3%
	②電車	55.1%	②路線バス	49.7%
	③路線バス	53.6%	③電車	49.1%
7 たすけあい				
心配事や愚痴を聞いてあげる人	①配偶者	57.2%	①配偶者	58.0%
	②友人	50.6%	②友人	52.1%
	③兄弟姉妹・親戚・親・孫	32.6%	③別居の子ども	38.2%
	④別居の子ども	32.3%	④兄弟姉妹・親戚・親・孫	36.0%